

# 会 議 録

会議名	第2回 みよし市町誌編さん委員会			記載者	久野 宗秀
期 日	平成24年11月2日(金)			場 所	市役所201会議室
	午後2時00分～3時30分				
出席者	編さん委員	小野田英久	石川 芳秋	事務局	部 長 赤川 鈴治
		林 董一	黒田 安雄		次 長 塚本 直樹
		近藤 隆治	深谷 みほ		専門監 近藤 政彦
		小野田賢治			主 幹 久野 宗秀
					専門員 久保 正明
	欠 席	木戸 友二	水野 裕之		伊藤 大輔
内 容					

## 1 あいさつ

【会長】今日はお忙しい中枉げてご出席いただきありがとうございます。執筆いただいた先生方には大変ご厄介になっております。先生方にご指導いただいてよりよい町誌にしていきたいと思っております。広報でも各部会の紹介をいただいております。この委員会で広報でPRしていけばということになりまして、広報のほうも受け入れてくれました。これを発表会の場で何らかのかたちで活用していきたいと思っております。

それから、編さん委員会のあと調整委員会が予定されています。町誌完成後の発表会のことについてご相談いたしたいと思っております。

【事務局】町誌編さん委員会に異動がございました。10月1日から新しく小野田賢治教育長にご就任いただいております。併せて編さん委員にもご就任いただきました。

【委員(教育長)】よろしくお願ひします。皆さま方におかれましては日頃みよし市の教育行政に格別なご協力、ご支援をいただき大変ありがとうございます。歴史的な変遷を記録保存し後世に伝えることは大変意義のあることだと思ひます。その編さんに皆さま方とともに関わらせていただけるのは大変光栄に思ひます。よろしくお願ひします。

## 2 協議事項

### (1) 目次案及び執筆原稿について

【事務局】(事業実施状況について報告)

【会長】はい。今主幹から説明いただきましたが、何かありますでしょうか。

【委員】今主幹から話があったのですが目次が変わっておりまして、今原始・古代に中世の窯業入っていますが、これが中世に入ると思ひますが。

【事務局】そのようなかたちで調整してはどうかということでありまして、まだ調整は行っておりません。

【委員】先回の編さん委員会で原始古代、中世の窯業の部分が本文編の文体ではないという

ご意見が出ました。原始古代の方に移して窯業を一括して考え、そのことを凡例で断るという形で掲載する。窯業を一括して考えるということで行こうということになりました。しかし、中世の窯業という節があって、その直ぐ後に中世という中扉が来ます。このことに違和感を持つ方も多いと思います。

【委員】私はこの前の編集委員会で2つの問題が出たと思います。1つは章節を変えてなんとか接点を作っていこうということです。これは必要だと思います。考古は窯業が重要だから窯業を重点的にやりたい。それはよくわかります。ただ窯業は資料編でも出まして、今回報告書も別に出ると言うことですので、小中学生には難しくても一般市民の方に読みやすく、歴史的な流れの中で書いていただけたらどうかということが中世部会や監修者のお考えだと思います。これに何とか接点を作れないかというのが現在の段階です。

章節についてはそういうことですが、書体の問題や細かい所は調整していけばいいのですが、当初からあまりにも細かいことを決めずに、基本的な枠組みだけを決めて弾力的に考えて行く必要があると思います。原稿が出てきていますので、これから調整していくことになると思います。

【会長】事務局はどうですか。

【事務局】今後、目次案について中世部会と調整していきたいと思います。

【会長】それでは次に進めたいと思います。

(2) 平成24年度上半期事業実施状況について

【事務局】(状況について説明する)

【会長】今までの所で何かご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に移りたいと思います。

(3) 本文編の発刊スケジュールについて

【事務局】資料は23年11月4日段階のものです。現在このときの予定よりも遅れています。今後は11月中には入稿したいと思います。業者は決まっている。初校が出るまで一ヶ月半かかります。年内に初校ゲラが出る予定。3校を予定しており、3月末までにこれを終え、5月の編集、編さん委員会です承を得て印刷に回したいと考えています。今年度末に発刊できないので繰越明許という予算措置をとります。来年度の予算は厳しい状況です。

【会長】ありがとうございました。他に何かご意見ありませんか。それでは次をお願いします。

### 3 その他

【事務局】本文編の発刊は2,000部を予定しています。約1,000部を謹呈します。一般販売の価格は3,000円。次回の編さん委員会は来年の2月に予定しています。

【会長】以上でしょうか。折角の機会ですので何かご意見ありますでしょうか。

【委員】よろしいでしょうか。発刊スケジュールについてご説明がありましたが、編集委員会の一員としてひとことお詫びしなければならないのは予定通り発刊できなかったということですが、本文編の執筆期間は当初2年ということでした。しかし4年かかるのが普通です

のでとても無理だと申しましたところ、結局、3年ということになりました。それがそのまま来ています。資料編は遅れて現実には5、6月に出ているわけです。そのとき事務局の方からすでに本文編の準備がなされましたが、執筆者の方は資料編の発刊で手がいっぱいでした。両方並行してやるのは無理だということで、資料編が終わってから本文編に取りかかるということになりました。現実には本文編に取りかかったのは5、6月からでして、そうなりますと、来年のそのくらいの時期で3年になるわけです。これが当初の3年ということになると思っています。

先生方は大変よくやっていただきました。内容的には少しちぐはぐしたところがありますが、よくここまで原稿を出していただいたと監修者としては心の中では大変感謝しています。本文編は資料編くらべると手数のかかることはおびただしい。資料編は史料を活字にすれば頁数は埋まるんですけども、本文編は全部自分で執筆しなければならない。文体も書き手によって違いますし、それを編集委員が統一する。それを私がまた統一するという作業がある。例えば目次を見ていただきたいのですが、暮らしとくらしという語句が混在しています。こういうのをひとつひとつ統一していかなければならない。

先ほど3校というお話が事務局からありましたが、常識的には4校で、5校が念校です。それからもう一回見直す。今回の印刷は大垣でやっているということですので、最悪の場合そこまで行かなければならない。予算についても編集委員会で来年度は厳しいというお話がありました。大変な時期にさしかかっています。このことをご説明差し上げたいと思います。

【事務局】索引についてですが、今後、拾い出しの作業をしなければいけなくなりますが、かなりの日数が予想されます。

【委員】年表の作り方についてもさまざまありまして大変です。この間も細かい議論が出ました。

【会長】特に全体的な話をお聞きして。何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。事務局もいいでしょうか。それでは皆さまお世話になりました。これからもよろしくお願ひします。

午後3時30分 終了